

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年11月7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300693		
法人名	社会福祉法人 若葉会		
事業所名	グループホーム みのり園	ユニット名	
所在地	〒319-2214 茨城県常陸大宮市鷹巣2243-1		
自己評価作成日	平成25年6月20日	評価結果 市町村受理日	平成25年11月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0873300693-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年8月20日	評価確定日	平成25年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「人間らしく生きること」の理念のもと、一人ひとりの生活歴、仕事歴を理解し、その人らしい生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は同一法人の通所介護事業所や介護老人福祉施設と同じ敷地内にあり、運動会や七夕祭り、敬老会など、様々な行事を利用者と職員合わせて250名程の人数で実施している。
法人全体で避難訓練等を実施して協力体制を築いており、利用者や家族等に安心を与えている。
管理者は市が主催する地域行事の開催場所として事業所を活用してもらうよう働きかけたり、緊急連絡網に近隣住民を記載して災害時の連絡体制を強化したりするなど、地域に密着した事業所になるよう努めている。
利用者が併設している他事業所の利用者と将棋をしたり、会話を楽しんだり、一緒に入浴したりして交流ができるように支援している。
職員は事業所周辺の清掃活動を通して近隣住民と挨拶を交わしながら、事業所の理解が得られるよう努めている。
職員は利用者の尊厳ある姿を大切にしており、利用者が自己決定を行えるように取り組みながら、穏やかにその人らしく居心地よく過ごせるように支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人間らしく生きること」を理念とし、利用者が安心と尊厳のある生活を送れるように努め、自己決定を行えるように日々取り組んでいる。	法人の理念「人間らしく生きること」を玄関に掲示し、月1回の全職員による会議で確認し合い、共有して実践につなげている。 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成しているが、事業所内に掲示しておらず、全職員で共有するまでには至っていない。	法人の理念とともに、事業所独自の理念を事業所内に掲示して全職員で共有し、実践につなげることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児、小・中学生の訪問やボランティア等との交流を行っている。	町内会に加入し、市の広報誌で情報を得ながら利用者と職員は市の菊祭りなどに出かけている。 保育園児が来訪して歌や太鼓を披露している。 小学生や中学生の職場体験学習を受け入れている。 団体や個人の演芸ボランティアが頻繁に来訪しており、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で研修の報告を行ったり、園便りを毎月発行して認知症の理解を深めている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を取り入れて、サービス向上に生かしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、元民生委員など地域住民の代表4名で2ヶ月に1回開催し、利用者の生活の様子や運営状況、行事の報告などを行っている。 会議では市担当者から他事業所で行われていた虐待の報告を受け、虐待をしないケアについて再度確認しているほか、家族等から「家族が参加できる事業所の行事を増やして欲しい」との要望を受け、外出行事に家族等も参加ができるようにするなど、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の状況を報告し、市町村との意見交換を行って協力関係を築いている。	管理者は市職員の来訪時や電話で利用者に関する困り事などを相談している。 管理者は要介護更新認定の申請で市役所を訪問した際には、運営推進会議の担当者を訪ねて近況を報告しているほか、市担当者の来訪時には助言を得たり、情報交換をしたりしながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに取り組んでいる。	事業所は利用者の行動制限を行わないこととしており、身体拘束をしないケアに努めている。 日中は玄関を施錠せず夜間のみ防犯のため施錠している。 管理者は日々の支援の中で職員に身体拘束をしないケアの教育を行っており、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解している。 身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、毎年年間の研修計画に身体拘束排除に向けた研修を組み入れて内部研修会を実施している。 やむを得ず身体拘束をする場合に備え、経過観察記録や検討記録などの書類を準備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加し、職員間で意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解をし、必要に応じて活用できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かりやすく説明をし、ご家族の不安や疑問に答え、納得した上での署名、捺印を行っている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談・苦情の受付の体制が整っている事を説明している。玄関先に相談・苦情を記入する用紙と投書箱を設置している。また、面会の際にも声をかけている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を設け、意見交換やサービス向上に努めている。	<p>管理者は月1回の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、日頃から職員の意見や提案を聞くよう努めている。</p> <p>職員の提案を受け、歩行や座位が保持できず、一般的な浴槽では入浴が困難な利用者の場合でも安全に入浴ができるよう、併設している通所介護事業所の機械浴槽を利用できるようにするなど、運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議など個々の努力、実績勤務状況を評価している。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や勉強会を開き、話し合いを持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症に関する研修・勉強会に参加し、交流を深め、サービス向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家庭訪問し、本人の性格や情報を収集し、困っている事、願望等に耳を傾け安心して生活して頂けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の来園時に不安なことや要望を良く聞き、話しやすい雰囲気作りをして、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族が必要としているものや状況を考慮し、サービスの検討を心がけている。また、希望があれば併設の施設の見学も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を生かし、個々の得意分野で活躍して頂けるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にみえた際に、本人の状況を報告して家族関係が良好になるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来られるように支援している。遠方の方は電話で話ができるようにしている。	職員は月1回は利用者の馴染みの店に買い物に行けるよう同行している。 利用者の希望を家族等に伝え、墓参りに出かけたり、行きつけの理・美容院を継続して利用ができるよう支援をしている。 利用者の知人が来訪した際には、居間や居室など好きな場所に案内して、ゆっくり話ができるよう配慮している。 併設する通所介護事業所に通う馴染みの利用者や事業所で将棋をしたり、風呂と一緒に入ったりして、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が過せるように配慮している。孤立しがちな利用者には、職員が仲介に入り、関わりを持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、本人やご家族に声をかけるなどして、支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望・意向を把握し、見守りを行っている。	職員は利用者の会話や表情などから思いや意向の把握に努め、信頼関係を築きながら利用者の希望や意向にそった支援ができるように努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は家族等から話を聞いたり、表情やしぐさなどから思いを汲み取るよう努め、利用者本位に検討している。 日々のケアの中で把握した利用者の情報は個人記録に記載し、全職員で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らしを持続できるように努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に見守りを行い、個々の生活のリズムに合わせて1日の流れを作っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、必要な関係者と話し合いを持って、意見やアイデアを反映し、より良い介護計画を作成している。身体状況に変化があった場合は、その都度見直しをしている。	利用者を担当する職員が利用者と家族等の意向や要望を取り入れながら作成した介護計画案を基に、職員による月1回のケース会議で検討しながら、計画作成担当者が医療関係者の意見を踏まえた介護計画を作成している。 毎月のモニタリングや6ヶ月毎の評価に基づき、介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の要望に応じられる体制が整っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小・中学校や地域ボランティアの訪問を受けて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	契約時に利用者、家族の希望を確認し、かかりつけ病院や協力病院を受診している。入居前の馴染みの関係が継続できるように対応している。	利用者や家族等が希望する医療機関での受診を支援し、適切な医療が受けられるように支援している。 受診は家族等の付添いを基本とし、同行する家族等に「情報提供書」を渡しているほか、受診後は結果を利用者のケース記録に朱字で記録している。 家族等が同行できない場合や緊急の場合は、家族等に連絡するとともに、職員が同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設の施設の看護師と密に連携している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、ご家族、施設と話し合い、早期退院ができる方向で話している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に見取り介護に関する指針の説明をして同意を頂いている。変化があればご家族と相談し、病院受診して話し合いを持っている。	「看取り介護に関する指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。併設する特別養護老人ホームの看護師や協力医療機関と連携を図りながら看取り介護を実施している。看取り介護の際には、状況変化に応じた看取り介護計画を作成し、家族等の同意を得るとともに、状況の変化をケース記録に記載している。全体会議において年1回看取りに関する研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがある。また、救急救命講習会に参加したり、併設の施設と連携を取っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、併設の施設と避難訓練を行っている。また、地域との協力体制も整っている。	併設する特別養護老人ホームなどの事業所と合同で月1回の避難訓練と年2回の夜間を想定した避難訓練を実施しているが、訓練内容は管理者が本部に行って火元を確認し、事業所に戻って職員に報告するだけとなっており、実際に利用者と一緒に避難訓練をするまでには至っていない。 緊急連絡網に近隣住民の連絡先を記載しているが、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練での職員一人ひとりの反省や感想は記録に残しているが、作成されている実施記録は1回分だけで、参加人数などの簡単な記録に留まっており、課題などを記載した詳細な実施記録を作成するまでには至っていない。 様々な災害を想定した避難訓練や事業所独自の避難訓練を実施するまでには至っていない。 避難経路が決まっているが、立木があったり排水路にブロックが乗せてあるなど、利用者が避難するには適切でない避難経路となっている。 併設の事業所で食糧を備蓄するとともに、本部の食糧管理者が一覧表を作成して管理しているほか、事業所では毛布や懐中電灯を備えている。	合同の避難訓練のほかに、様々な災害を想定した事業所独自の避難訓練を実施するとともに、実施記録を作成し、課題を話し合っただけで、今後の訓練に活かすことを期待する。 避難訓練では実際に利用者の避難誘導を行うとともに、利用者が安全に避難ができるよう、これまでの避難経路を見直すことを期待する。 事業所の行事に合わせて避難訓練を実施し、避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう工夫することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保に努め、個々に合わせた言葉かけやコミュニケーションを行っている。	管理者や職員は利用者に対する呼び方や言葉遣いなどに配慮し、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしている。 プライバシー保護に関する勉強会や接遇研修を実施している。 個人情報に関する書類は事務室のカウンター内の低い書棚に保管して情報漏洩に留意している。 広報誌への写真の掲載や廊下などへの写真の掲示は、契約時に利用者や家族等の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に話しやすい環境を作ると共に言葉遣いに注意し、本人の意思を尊重し、自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、個々の希望に沿ってその人らしい暮らしができるように見守り支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ行ったり、移動美容室を利用している。また、衣類も好みのものを着用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好きなもの、嫌いなものを把握し、嫌いなものが献立にある時は、別のもの提供している。	法人本部で調理された食事が届くが、職員は自家菜園で収穫した野菜などを活かしながら、おかずを1品手作りして加えている。 利用者職員で誕生会のケーキやおやつを手作りしているほか、利用者はできる範囲で食事の準備や後片付けをしている。 季節の行事に合った特別メニューを取り入れ、食事が楽しみなものになるよう工夫している。 外出行事の際には利用者の希望を取り入れながら外食をしたり、弁当を持参したりしており、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を作成し、毎食の食事量、水分量を記入している。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら、歯磨きをする利用者は見守りを行い、介助の必要な利用者は一部介助している。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表による個々の排泄パターンを把握し、時間にとらわれず、個々のサイクルで声掛け誘導を行っている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりのタイミングに合わせてトイレ誘導を行なっている。 時間を決めたトイレ誘導や食事の前後にトイレ誘導をするなどして、利用者がトイレで排泄ができるよう支援している。 職員の適切なトイレ誘導によりパッドの使用量が減ったり、紙パンツを使用していた利用者が布パンツ使用になるなど、排泄の自立につながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を記入し、何日排便がないかがひと目で分かるようになっている。飲食物の工夫や運動を取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の身体状況に合わせ、車椅子の利用者は機械浴での入浴となっている。	入浴は週3日としているが、利用者の希望や状況に応じて毎日いつでも入浴ができるよう支援している。 併設する通所介護事業所の一般浴槽や機械浴槽を使用することができ、車いす使用の利用者でも安全に入浴ができるよう支援している。 利用者が入浴を拒む場合は時間をずらして再度声かけをしたり、職員を替えて声かけをしたりするなど、工夫して入浴ができるよう支援している。 柚子湯や菖蒲湯、りんご湯などを取り入れ、季節感のある入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や日々の状況に応じて休息したりできるように支援している。又、天気の良い日には布団を干したり、寝具類の清潔保持に努め、気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している個々の内服薬のリストをもとに副作用、用法や用量について理解している。また、薬が変わったり、増量、減量になった時など症状の変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や仕事歴を生かし、一人ひとりが活躍し、生き甲斐に繋がるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の買い物に同行したり、お花見やりんご狩り、外食会を行っている。	天気の良い日は敷地内の散歩や事業所脇のベンチで外気浴ができるよう支援をしている。 年間の行事計画を立てて近隣にある寺院への初詣を始め、桜や紫陽花の花見のほか、山方淡水魚館見学やぶどう狩り、りんご狩りなどの外出支援をしている。 利用者の希望を家族等に伝え、家族等の協力を得ながら個別に外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの安心感を配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけて欲しいとの訴えがあった場合は、その都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、不快や刺激がないように配慮している。季節の花や創作物を飾ったりし、季節感を味わい、居心地よく過ごせるように工夫している。	採光のよい居間は広く清潔に保たれており、L字型の大きなソファを配置しているほか、腰高の畳敷きのスペースが設けられ、居心地のよい空間となっている。 食事のスペースには椅子とテーブル、家具調炬燵を配置しているほか、足踏みミシンをさり気なく配置して家庭的な雰囲気づくりをしている。 利用者と職員は一緒に季節の花をテーマにした貼り絵を制作しており、壁面には大作が飾られている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーに設置してあるソファと畳部分、飲食スペースのテーブル部分等の共有空間のなかにも個人で過せる空間を確保している。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机や椅子、ハンガーラックを持ってきてる人もいる。また、家族写真や好みの観葉植物が置いてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等共有する場所には表札があり、分かりやすくなっている。また、手すりが設置しており、安全対策に工夫している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみのり園

作成日 平成25年11月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	全職員が理念を理解しているが実践にまでは繋がっていない。	全職員が理念を共有し、実践に繋がっていく。	理念を職員休憩室やトイレに掲示し、毎日、目につくようにしている。	達成済
2	13	合同の避難訓練のみで、事業所独自の訓練をしていない。また、近隣住民の参加が得られていない。	事業所独自の訓練を実施し、近隣住民の参加が得られるようにする。	避難経路を見直し、運営推進会議などで、近隣住民への参加の要請をする。	1ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。